

小学校体育科の教科書に対する意識の検討

－小学校教師及び学生への調査を通して－

山野邊 真佑 （ 東京学芸大学 ）

1. 目的

本研究の目的は、現在の体育授業における教科書について教師及び養成期の学生はどのように考えているか、属性や意識の違いをもとに考察することである。

2. 研究方法

- 1) 対象者: 小学校教師 41 名, 養成期の学生 49 名
- 2) 調査方法: 体育科の検定教科書に対する意識に関する質問紙調査を実施した。
- 3) 分析方法: 質問紙で得られた回答について、因子分析(主因子法・Promax 斜交回転)を行った。抽出された因子、教科書の必要性、教科書の内容に関する意識についてそれぞれ 2 群間の平均値の比較は t 検定, 3 群間以上は一元配置分散分析を行った。データの分析は、IBM SPSS Statistics29 を使用した。

3. 結果と考察

教科書の必要性については、体育科に高い関心を持ち、授業実践に自信がある人は低く、不安がある人は高く感じている傾向が見られた。

「学習意欲・主体性の向上」「授業目標・内容の明確化」「授業者の信念の実現」因子において、中心研究教科が体育科以外、研究経験のない人において高い得点が見られた。教科書について、授業実践に不安がある人や授業の拠り所を必要としている人は肯定的に捉える一方で、体育の研究に力を入れ、体育授業の自由度を重視している人は批判的に捉える傾向が見られた。

自由記述では、教科書という基盤によって教師が自信を持つことや授業の質が高まるという意見と教科書依存による授業の画一化や教師の創意工夫喪失による授業の質の低下を懸念する意見が見られ、教科書の捉え方の違いが明らか

になった。教科書導入は、教師の意識や活用方法の理解が重要であり、柔軟性を保ち、授業の質を高めるための工夫が求められることが示唆された(図)。

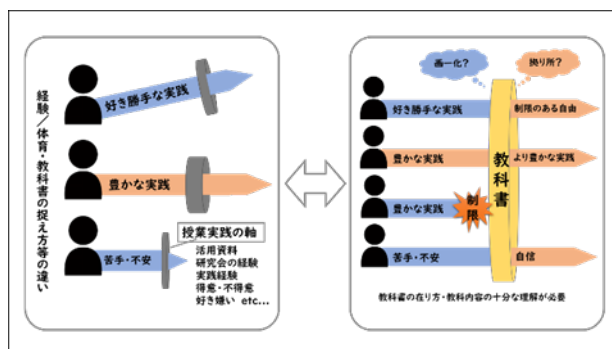


図 教師及び学生の教科書の捉え方

4. 結論

体育科の専門性や経験の差による教科書の捉え方の違いが明らかになった。その中で、体育授業の自由度の重要性和教科書という基盤の必要性に対して意識の差が生じていることが示唆された。教科書によって、体育授業がより良いものになるか、それとも発展の妨げとなるか、活用者の捉え方が重要であることが示唆され、教師の教科書の在り方や教科内容の十分な理解が必要となる。創意工夫を損なわない柔軟さを持ちつつ教師の不安を解消する要素を持つ教科書の作成は可能なのか検討する必要があるだろう。

5. 主な参考文献

- 1) 白旗 和也(2013) 小学校教師の体育科学学習指導と行政作成資料の活用に関する研究. スポーツ教育学研究, 32(2), 59-72.
- 2) 重松・良祐 西澤・誠人(2015)・小学校から高等学校までの体育の好き嫌いとうちでの運動習慣. 教育医学, 61(2), 217-224.